

しべつ
標津の魅力



春



夏



秋



冬



標津町は北海道の最東端、世界自然遺産に登録された知床半島に抱き抱えられるようにオホーツク海に面して存在し、漁業と酪農が盛んな町です。徹底した衛生管理(HACCP)による栽培漁業、家畜糞尿を最大限に活用した資源循環型酪農(有機低コスト酪農)を推進しています。また、多くの公益的機能をもつ森林を積極的に守り育てています。

「シベツ」の語源はアイヌ語で「サケのいるところ、大川、または本流」の意味です。豊かな森林は多くのサケ・マス増殖河川、耕地を守り、住民生活に潤いとやすらぎをもたらしています。

洋上わずか24km先には近くて遠い島国後島が、その大きな姿を見せています。時にはクジラウォッチングも楽しめます。海、山とも素晴らしい景観をつくり、スケールの大きな自然が広がっている風光明媚な地です。

太平洋クルーズ&エア

「地球博士になろう！」
in 標津・オホーツク

主催 特定非営利活動法人Sustainable Fellowship International

共催 標津町・標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会

協力 ANAセールス株式会社・太平洋フェリー株式会社

特定非営利活動法人 Sustainable Fellowship International

TEL:0774(98)3731 FAX:0774(95)5051

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7 けいはんなプラザラボ棟

しべつ
標津
第2の故郷へ

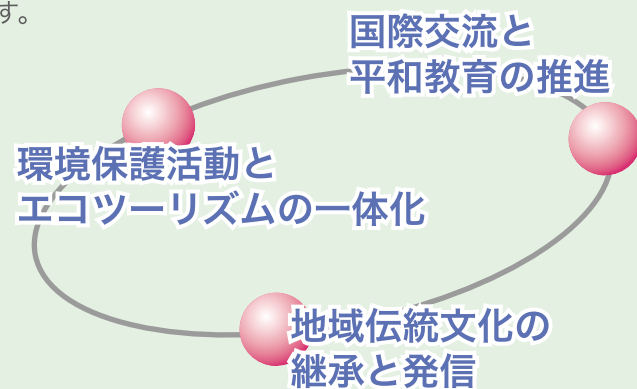
趣旨

～太平洋・北の大地・青い空
人・生命・自然の営みを学ぶ～

海にすばらしい栄養があるのは
山にすばらしい栄養があるから
山に木がないとすばらしい栄養にならない
山がないとすばらしい水にならない
きれいな山 きれいな川 きれいな海 生命の源

地球環境時代が求めるサスティナブル（持続可能）なコミュニティ形成に向けた循環型社会では、自然の循環系に再調和する人工の循環系の構築が不可欠です。自然が営む相生の循環と、人間の営みとの調和、更には物質循環系だけでなく、文化循環系の構築が必要だと考えられます。

いのちいきかう北の大地で、人間性を回復する環境保護活動とエコツーリズムの一体化、国際交流と平和教育の推進、地域伝統文化の継承と発信など、地域活性事業のプログラム・モデルを開発し、日本・海外に発信します。



未来へ

～青い地球・みんなの地球・未来の地球～

環境問題は、ある意味では人と地球、人とそれ以外の生物、人と人のコミュニケーション問題とも言えます。それは、家族や友人、大切な人たちとの関係に似ています。そこでは、他者とうまくやっていくための心のありようが問われます。自分本意だけでは、スムーズなかわりはありません。

私たちは、環境、平和、伝統・創造的文化の担い手として、新たな日本社会、国境なき世界のガバナンスにおける社会、教育、環境の在り方を研究・提言する活動の必要性を実感するに至っています。そのための啓発、政策、提言を含め具体的なミッションと業務の展開が必要であると考えています。

21世紀のサスティナブルな地球時代の環境、平和、文化の担い手を育成します。



特定非営利活動法人
Sustainable Fellowship International
理事長

西村 和雄



～みんなが元気に生きぬく
地球社会の実現・継続～

足下を見つめ地球視野に立った、自然の循環系と調和する生活様式への転換や、知識創造社会の継承・発展を担う心豊かな高度人材の育成が急がれています。私たちは環境と教育の新しい価値観の創造に向けてエコロジカルに、生きがいをもち、安心・安全・ハートフルな生活を、世代を越えて創造し続けられる暮らしの創造の実現をめざしています。

標津町長
金澤 瑛



～萌える海と大地・さわやか交流郷～

標津町は、だれもが住んでよかったまち、だれもが住みたいまちと感じる「魅力ある地域づくり」を目指し、そのテーマに沿った歩みを着々と刻んでいます。

より豊かな未来は、人とのかかわりの中から創造されます。豊かな海と自然に恵まれた大地と、先人の築きあげた歴史に育まれながら21世紀に向けて、皆様と共に育ちあいたいと願っています。新たな展開を見せるエネルギーギッシュな標津町にぜひおいでください。

地球博士への道

地球博士になろう！

人は、かかわりの中で、
自分の心を大きくしてゆく事ができる
人とのかかわりの中で学んだ事
それは「心の財産」です

どんなに多くの書物を読んでも、書物だけでは学べないものがあります。私たちは、新しい体験に、心から共感したり、立ちすくみ、悩み、葛藤して、バランスのとれた成長をとげていきます。つまり、新しい経験こそ、私たちの広い世界への道案内人なのです。

自分の存在そのものが認められ、共感しあいながら、肯定的なエネルギーがわきあがり、時には混乱さえも、自分の一部として受け入れていくことができるようになっていきます。

人との共感を実感できるような場、共に育ちあう “共育” の場が、求められています。

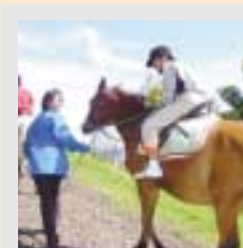
地球が遊び場、新しい体験となかま！

地球を発見する、世界を発見する、自分自身を発見する、発見を発見する？！

心がどんどん澄んでいく。
感じるアンテナが高く広くなる。
物から解放されて、見えてくる
本当の豊かさ。
地球に触るってどんな発見！
ともだち100人ってどんな発見！



さけます学博士



どさんこ学博士



野付学博士



森林学博士



知床・オホーツク学博士

